



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円

道標



Yet... Joy! Hope! Gratitude!

ブイジュ師の遺志を受け継ぎ未来へ

瀬留教会で九十年目の命日祭礼

宣教師としてあるべき姿を貫き、病に冒された後も瀬留集落のために働き、今も瀬留の地に眠っているフランス人宣教師ブイジュ神父(パリ外国宣教会)の九十年目の命日祭「ブイジュ祭」が、七月八日(日)瀬留教会(栃尾泰英神父)であった。教区報では、同教会通信員でもある栄ハルさんの記事を掲載する。

七月八日(日)瀬留教会では、郡山司教さまをお迎えして、ブイジュ神父さまの九十年目の命日祭「ブイジュ祭」をお祝いしました。この日の感謝のミサの中では、八人の中高生の堅信式もあり、それぞれに大人の信者になりました。信仰の恵みをいただきました。

ブイジュ神父さまは一九〇三年九月に瀬留に着任されて以来十九年という長い間、この地で福音宣教に従事されました。神父さまは集落の方々と親しく交わり、現在もある教会堂の建設に奔走・尽力されていたのです。瀬留集落をこよなく愛しておられた神父さまは、病に冒された際には故国フランスの母親から「帰国するように」との手紙を受け取りました。が、「私は召命に忠実でありたい。神父さまを裏切ることはいけません。母親に送っていただきます。そして一九二二年七月十二日、この地で五十四年の生涯を

閉じました。そして神父さまは瀬留の共同墓地に埋葬されています。瀬留小教会ではこのブイジュ神父さまの帰天九十周年という節目の年に当たり、多くの方々に墓参していただく計画を立てました。今年のブイジュ祭当日は明け方まで大雨に見舞われましたが、時間の経過とともに晴れ間が現れました。そ

して鹿児島からは郡山司教さまが、奄美大島各地からも永山幸弘神父(大島地区長)をはじめ大勢の司祭、終身助祭、そして信徒の方々が駆けつけて下さいました。そしてもちろん瀬留集落の方々も例年より多く参加して下さい、いつもにもまして盛大に墓参することができ、神に感謝することができました。私にはあの激しい雨も天国にいるブイジュ神父さまが喜びの涙を流されているように感じられました。足を運んで下さった皆さまに、主任司祭栃尾神父を代表とする瀬留小教会信徒一同、心から感謝申し上げます。

ます。そしてブイジュ祭での祝賀会で再び雨に見舞われた際には、会場の移動などにご迷惑をおかけいたしました。申し訳ありません。祝賀会の余興では秋名コラスの皆さんの歌声、聖心教会の男声合唱団、その他舞踊、そしてブイジュ神父さまと瀬留集落の人々との交流を描いたブイジュ劇も狭い会場でしたが披露して無事終わることができ

ましたことを嬉しく思っています。特に司教さまに足を運んでいただき、堅信式とミサを司式していただきましたこと、まことに「トウトガナシ」でした。今後は、ブイジュ神父さまのご遺志を受け継ぎ、信仰生活を忠実に守り、未来に希望を託し、発展につなげるよう小教区をあげて努力していきたいと思っております。(栄ハル通信員)



ブイジュ神父の眠る墓の前で

国フランスの母親から「帰国するように」との手紙を受け取りました。が、「私は召命に忠実でありたい。神父さまを裏切ることはいけません。母親に送っていただきます。そして一九二二年七月十二日、この地で五十四年の生涯を



移転し新築落成

阿久根市の聖園老人ホーム

施設の老朽化に伴い移転新築工事に取りかかった社会福祉法人善き牧者会「聖園老人ホーム」(川涯利雄園長)では、その工事を終え、七月十八日(水)に施設披露会を行った。同ホームは一九六三年秋、レデンプトール会の尽力によって阿久根市波留に開設され、その経営は聖心愛子会(現在の聖心の布教姉妹会)に任せられた。開設当時の定員数は三十、しかも原則として女性だけの入所とされていた同ホームも、時代の要求にこたえる

ように様変わりし、一九六五年には定員数六十となり、施設も増改築を繰り返してきた。また聖心の布教姉妹会の阿久根修道院閉鎖に伴い、二〇〇八年にはその経営も現在の社会福祉法人善き牧者会(竹山昭理事長)へと移譲されていた。移転新築なった「聖園老人ホーム」は、阿久根市西目の静かな住宅地「春畑住宅」にあり、今後、入所者たちも順次旧ホームから移ってくるという。新しいホームの披露会では、まず郡山司教司式のミサがささげられたほか施設の祝賀が行われた。その後、記念式典と施設見学があったあと、会場を阿久根市のホテルに移し、施設完成祝賀会が行われた。

2012年教区評議会

キリストを信じる喜び
—祈りの小教区づくり—

日時：9月9日(日)
場所：ザビエル教会と教区本部

- | |
|------------------|
| スケジュール |
| 9時 司教ミサ |
| 11時 司教講話 |
| 12時 昼食 |
| 13時 分かち合い |
| 15時 全体会 |
| ※全体会後聖体賛美式があります。 |

八月二十日から

夏期集中講座

「信仰をめぐる五つの講話」をテーマに竹山昭神父の夏期講座が八月二十日(月)から二十四日(金)までザビエル教会一階ホールで開かれる。開講時間は例年通り午前の部が十時から十二時、午後の部が九時から二十一時までで、受講料は受講回数に関係なく一人五百円(当日受付払い)。申込は教区本部「夏期集中講座」係まで(TEL 099-226-1510 FAX 099-225-0440)。

糸永真一司教の ダイヤモンド祝

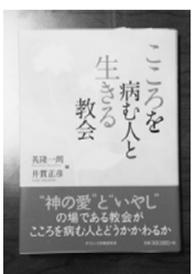
日時：9月17日(月) 16時
場所：ザビエル教会
糸永司教の司祭叙階六十年を記念し感謝ミサのささげ茶話会を開きます。
※詳細は教区報九月号で。

ザビエル書院の窓

英隆一郎・井貫正彦 編

こころを病む人と生きる教会

オリエンズ宗教研究所 定価：本体1,400円+税



毎年200万人以上が精神疾患を患っていると言われる現代、教会にも心を病む多くの人が足を運んでくる。司祭も修道者も、信徒もそんな人たちを大切にしなければいけないことは分かってはいても、病んでしまうというデリケートな心の持ち主とどうかかわっていくのか悩んでしまう。それでも神の愛と癒しの場であるはずの教会である限り、そんな人たちの要求にこたえなければならぬ。この本は専門家や心を病んだ当事者の思いが綴られている。きっと何らかのヒントを与えてくれる。

お母さんへの手紙

息子から病床の母へのメッセージ

匿名信 徒

お母さん、すぐお見舞いに行けなくてごめんね。でも、早く元気になるように毎日お祈りしてるからね。神様が呼ばれているのでなければ、きつとこの病気を通してお母さんにメッセージを送っているだけだから、きつと元気になるはずだよ。たぶん、神様が「無理しないで少し休みなさい」と言っているのだらうし、娘を鹿兒島に戻すための方便だったかもしれないし、子ども達やお父さんに、お母さんのことをもつと考えるようにさせる機会だったかもしれないね。

スチャン全員に言えることだと思うから、僕の思うことを書くよ。お母さん、自分を許していませんか？ たとえば、兄ちゃんが社会にでなくなったことで、まだ自分のせいだと自分を責めてないですか？ 僕を含めて教会から一時期離れた子どもや洗礼を受けない配偶者について、自分の教育が悪かったからだとか思っていますか？ 神様やイエス様はすべて許していらつしやるのに、どこか、過去の自分の行いや思いを悔いたり、引きずったりしていませんか？

悔いしたり、未来のことを心配したりしないで下さい。人は神に似せられて創られ、一人ひとりの中にイエス様がいるのですから、自分を責めたり、自分を許せないのは、神様やイエス様を責めたり許さないのと同じことです。すべてのことは意味があつて、悪と思われれることもそれによつて気づくことがあつたとすれば、善にもなります。ですから過去を振り返つて、嫌な思い、悔しい思い、悲しい思い、怒り、自分を責める思いが残っていたら、それは必要な体験

だつたので、それはそのまま受け入れましょう。そういう感情を持つように神様は私たちを創られたのです。それが人間だつたと思ひ、すべての思いを否定せずに、よいとか悪いとか判断せずにとただ受け入れましょう。そして自分を許しましょう。何度振り返つても、冷静にそういうことがあつたなと思うだけで嫌な感情がなくなるまで、自分に対して「許す、許す」と言い続けましょう。だつて神様はとつと許していらつしやるんですから、神様の作品である自分を神様を愛するように愛しましょう。僕自身これで、最近凄く心が軽くなりました。お母さんはとつと分かつていて既に実践しているかもしれないが、熱心なクリスチャ

美徳 ポルティユの御撰理修道女会 阿久根市 シスター・ヴェト

毎日毎日人生の歴史を捲つています 楽しいことは成功すること 悲しいことは失敗すること 嬉しいことも苦しいこともあります

『カトリック教会の教え』は「信仰とは何か 第三節 神」の唯物主義と無神論の項目で「物質主義の文明」に着目し、現代社会の問題点を次のように指摘しています。

「真実・理想・愛・責任」といった精神的価値が快適・便利・利益といった即物的価値に圧迫されがちです。このような社会に生きる個人にとつては、往々にして自分の人生の意義や目的や意義を見いだすことが困難になり、虚無的になりがちです。」

この世の喜びは束の間のこと、往々にして苦しいことの方が多いものです。が、これもまたやがて年月の経過とともに過ぎ去っていくものです。人のいのちの目的はこれを超えた永遠不滅の何かにあるのではないかと疑問がおのずと湧いてくるものです。この自分の心に湧いてくる思いに対して『カトリック教会の教え』の「信仰と

か。かつて日本ではカトリックの洗礼を受ける人が多かつた時代がありました。その背景として、人々が困難や苦しみに直面したとき、確固たる精神的価値を持つことを望んだ、ということがあげられます。それはより確かなものへの憧れであり、本物以外では満たされないと気づいたときでもあつた、と言えるでしょう。 昨年は東日本大震災がありました。地球の地震変動による巨大地震の影響などで、今後百年くらいは自然災害が多く発生するということが予想されるそうです。家族の生命や家屋などの財産を一瞬のうちに失うような状態になると、人間はより確かな普遍的な精神的価値を求めようになり、その結果、神にすがりたくなるものだと言われます。しかし、私たちが信じている神は、私たちが望む何かを与えてくれるわけではありません。私たちの思いを遥かに超えたところで私たちを導いて下さるのです。司教の紋章を思い出して下さい。どんなときでも神を信じて生きるからこそ、「…それでも喜び、希望、感謝」が湧いてくるものです。

生きる 確かなものへの憧れ

終身助祭 川口 茂

成功する時もつと熱中して皆に任せます 失敗する時深い謙遜をわが身に教えます 嬉しい時悲しい人のために祈ります 苦しい時小さい楽しさを慈しみます

今日、黒い雲があります 明日は明るい日があります 神様はいつも一緒に歩いています 歩き続けられるように能力を与えています

「カトリック教会の教え」は「信仰とは何か 第三節 神」の唯物主義と無神論の項目で「物質主義の文明」に着目し、現代社会の問題点を次のように指摘しています。

「真実・理想・愛・責任」といった精神的価値が快適・便利・利益といった即物的価値に圧迫されがちです。このような社会に生きる個人にとつては、往々にして自分の人生の意義や目的や意義を見いだすことが困難になり、虚無的になりがちです。」

か。かつて日本ではカトリックの洗礼を受ける人が多かつた時代がありました。その背景として、人々が困難や苦しみに直面したとき、確固たる精神的価値を持つことを望んだ、ということがあげられます。それはより確かなものへの憧れであり、本物以外では満たされないと気づいたときでもあつた、と言えるでしょう。 昨年は東日本大震災がありました。地球の地震変動による巨大地震の影響などで、今後百年くらいは自然災害が多く発生するということが予想されるそうです。家族の生命や家屋などの財産を一瞬のうちに失うような状態になると、人間はより確かな普遍的な精神的価値を求めようになり、その結果、神にすがりたくなるものだと言われます。しかし、私たちが信じている神は、私たちが望む何かを与えてくれるわけではありません。私たちの思いを遥かに超えたところで私たちを導いて下さるのです。司教の紋章を思い出して下さい。どんなときでも神を信じて生きるからこそ、「…それでも喜び、希望、感謝」が湧いてくるものです。

文芸

俳句

出水市 沖 弘子

雨音に聖書読みある梅雨籠

ザビエルの熱き風待つ祇園之洲

霧島市 政 ノブ子

アヴェマリア唱える皐月静かなり

愛光園 春山マリ子

幸せと思う心に夏が来る

鹿兒島市 徳永ノブ子

沈黙の祈る夕べの夏座敷

短歌

夕焼けの虹色の空鳥歌ひ

奄美市 林 常広

人形の絵を描き込む夜の更けを樹樹の梢

に雨は鳴りつつ

鹿兒島純心 川上 和

サマリアの渴ける女の水がめに豊けき御

手のいのちの泉

愛光園 春山マリ子

新しい友達出来て嬉しくて頼りとなりて

願いはそれだけ

祈りのある家庭を築こう

奄美カトリック女性連盟第三十四回総会

「奄美に於けるカトリックの女性がキリストの共同体として相互の交わりを深め、各教会と地域社会に於ける使徒職活動に寄与する」を基本理念に掲げる奄美カトリック女性連盟では六月十日(日)大笠利教会で第三十四回総会を開催した。

今年のテーマには日々々の祈りの大切さを子供たちに伝え、家族と一緒に祈り信仰を深め、宣教につなげることができるよう活動したいとの思いから「祈り」―祈りに満ちた家庭を築こう―が



六月二十四日(日)レデンプトール宣教修道女会本部(鹿児島市唐湊二丁目十二番)で誓願式があり、園田さん(写真)が初誓願を宣立した。園田さんは志布志市松山町の出身。

初誓願式

レデンプトール女子

く宣教活動ができるよう、新会長のもとに力を合わせていく決意を新たにしたい。そして昼食時の分かち合い

司教執務室だより

祈りは神の愛のしるし

ノベナの祈りをするようになって、自分の中でも種々の変化を感じるようになった。弟子たちが、夕暮れになっても帰ろうとしない人々を気遣って「群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買に行くでしょう」(マタイ一四・25)と言ったとき、「行かせることはしない。あなた方が彼らに食べるものを与えなさい」というイエスの答えにハッと気が付いたことがあったからだ。ブログにも書いたことだが、電車で席をゆずる高校生に先を越されたと自分とがめる女子学生。「こんな素敵な若者たちに福音を紹介できたらなあ。」漠然と思いを巡らしたそのとき、ふと脳裏に浮かんだのがあの主のみ言葉。「あなた方が彼らに食べるものを与えなさい。」そこで、ハタと気が付いたのがノベナの祈り。早速取り掛かった。すると、新聞の投書欄でしか知らない若い二人が目の前に立っているのかのように身近に感じられたから不思議だ。こんな使い方もある、という気付きは、突然目の前の扉が開かれたよ

うな驚きと祈りの新たな広がりを見せてもらったようで嬉しかった。「人間は自らのうちに神へのあこがれをもっている」(ベネディクト十六世「イエスの祈り」二五頁)。だから、あの若者たちのお年寄りを敬い行動に移す素直な心や態度も神様からのものだとすれば、彼らも無意識のうちに神への憧れを形にしていたことになる。そんな気付きも嬉しかった。

また、祈りが、具体的な祈りをささげる以前の「内的態度」であり「神の前のあり方」(同上二六頁)だという教皇の指摘は、祈りの教会を目指す鹿児島教区として大切にしたい。どんなことにしろ、思案するだけでなく、「まず神様にお願ひしてみよう」という気持ちになるとき、すでに祈りの教会になつていっている、すべてに祈りながら安心している子供のよう、喜びと希望の教会であることにも気がつくに違いない。皆さんの祈りが周りのすべてを包む神様の愛のしるしとなるよう祈りたい。



では会員がそれぞれ思い思いに語り合い、信仰の交わりができたことを喜び、親交を深めた。

総会の締めくくりには顧問司祭・永山幸弘神父司式の感謝のミサがささげられ雨の上がった午後四時過ぎに散会した。

(報告・久保正子)

短信

部(鹿児島市唐湊二丁目十二番)で誓願式があり、園田さん(写真)が初誓願を宣立した。園田さんは志布志市松山町の出身。この日の誓願式には郡山司教をはじめ多くの司祭が駆けつけたほか、園田さんの友人たちも数多く参列し喜びを分かち合った。

フィリピンフェスタ

六月二十三日(土)ザビエル教会でフィリピンのスペインからの独立を祝うフィリピンフェスタが開催され、鹿児島在住のフィリピン関係者が大勢集い、ミサに参列し、その後の交流のひとときを楽しんだ。

国分教会で誓信式

国分教会(サンタマリア神父主任司祭)では、七月十五日(日)郡山司教を迎えて誓信式があり、九人がその恵みに浴し、大人の信者となった。

霧島国際音楽祭

恒例の霧島国際音楽祭のザビエル教会コンサー

訃報

泉 紫朗さん 帰天
泉 紫朗二神父(鴨池教会主任)の厳父・セラフイム泉紫朗さんが七月二日(月)午前六時十五分、咽頭癌の

+KABAYAN SEKSIYON+ "PAGLALAKAD" IV-MAKAPANGYARIHAN (Karugtong)

Ang "mapagmahal na lakas" ng Ama, ang kanyang kagandahang-lo ob, ay nahahayag lalo na kay Kristong ating Panginoon, na sumasatin sa pamamagitan ng Espiritu. Inaangkin tayo ng Diyos bilang kanyang "segullah" balintataw ng Kanyang mata. Ang kanyang makapangyarihan pag-ibig ay lagging naghahangad na gumawa pa ng higit para sa atin, sa diwa ng "malasakit," tulad ng indarawan ni Kristo sa ating lahat sa kanyang talinhaga ng Mabuting Pastol.

Isang Misteryo-Gayunan, ang pagpapahayag sa Diyos bilang makapangyarihan Ama ay di-bumubulag sa Kristiyano sa lahat ng kasamaan sa daigdig. Napakatotoo ng kasalanan at paghihirap ng maraming tao upang di-mapansin o mahanapan ng mababaw na dahilan. Kaya ang laging tanong: Kung ang Diyos ay tunay na makapangyarihan sa lahat, bakit di niya lipulin lahat ng masama? Hindi nagbibigay ng madaling tugon ang ating Pananampalatayang Kristiyano sa hiwagang ito. Ngunit naghahain ito ng ilang batayang katotohanan na magpapalakas sa atin laban sa kawalan ng kabuluhan at paghihirap na salat sa pag-asa.

Ang Misteryo ng Kawalang-lakas ng Diyos-Ang kapangyarihan ng Diyos ay "misteryo" dahil malimit na nakikita itong kawalang-lakas. Higit na malinaw itong ipinamalas sa Paghihirap at Kamatayan ni Kristo. Ayon kay San Pablo "ang ipinangangaral nami y si Kristong ipinako sa krus-isang katitisan sa mga Judyo at kahangalan para sa mga Hentil. Subalit sa mga tinawag ng Diyos, maging Judyo at Griegp, si Kristo ang kapangyarihan at karunungan ng Diyos. Sapagkat ang inaakala nilang kahangalan ng Diyos ay karunungan higit kaysa lahat ng karunungan ng tao, at ang inaakala namang kabinaan ng Diyos ay lakas na higit sa lahat ng kalakasan ng tao. Kaya ang "kawalang-lakas" ng Diyos ay nananawagan ng pagbubunyi: "Nawa y malaman niyo... ang walang-bangang kapangyarihan ng Diyos sa atin na mga nanalig sa kanya. Ang kapangyarihan ding iyon ang muling bumuhay kay Kristo at nagluklok sa kanya sa katangian, sa kanan ng Diyos. Kaya nasa ilalim ng kapangyarihan ni Kristo ang lahat ng paghahari, kapamahalaan, kapangyarihan at pamunuan. Higit ang kanyang pangalan kaysa lahat ng pangalan, hindi lamang sa panahong ito kundi pati sa darating. Ipinalalim ng Diyos sa kapangyarihan ni Kristo ang lahat ng bagay, at siya ang ginawang ulo ng simbahan."

Higit pa rito, matatag kaming naniniwala na "muling binuhay ng Diyos ang Panginoong Jesus, at tayo na'y muling bubuhayin sa pamamagitan ng kanyang kapangyarihan".

Katekismo-Pipinong Katoliko (Fr. Dino Orofio)

8月の会と催し

- 3日(金) ルーシン神父命日(一九九四年)
- 4日(土) レヒナ神父叙階記念(一九六〇年)
- 5日(日) 年間第十八主日
- 6日(月) 主の変容

▼カトリック平和旬間(15日まで)

一九八一年、教皇ヨハネ・パウロ二世は広島で、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と言われました。戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。そこで日本のカトリック教会は、その翌年、もつとも身近で忘れることのできない、広島や長崎の事実を思い起こすのに適した八月六日から十五日までの十日間を「日本カトリック平和旬間」と決めました。

「平和旬間」に広島教区と長崎教区では、全国から司教をはじめとして多くの信者が集まり、「平和祈願ミサ」がささげられます。各教区でも、平和祈願ミサや平和行進、平和を主題とした映画会、講演会、研修会、平和を求める署名などが行われます。

- 7日(火) 小平卓保神父命日(二〇〇五年)
- 8日(水) 田原章神父霊名(聖ドミニコ)
- 10日(金) 聖ラウレンチオ助祭殉教者
- 12日(日) 年間第十九主日
- 15日(水) ブイジュ神父命日(一九二二年)
- 15日(水) 聖母の被昇天

- 2019日(日) 年間第二十主日
- 21日(火) 夏期講座・ザビエル教会ホール・24日まで
- 21日(火) ホリスティックスピリチュアルケア講座「信仰と病氣」・ザビエル教会集会室・18時30分
- 24日(金) 聖バルトロマイ使徒
- 25日(土) 宣教学校の集い・教区本部・13時30分
- 26日(日) 年間第二十一主日
- ▼オリーブの会・教区本部・13時30分

聖心教会にホームページ

奄美市の聖心教会がホームページを開設した。このホームページでは、教会の歴史やイベントの予定等を知ることができるほか、主任司祭永山幸弘神父の説教も読むことができるようになっている。

<http://naze-mikokoro.com>

ため自宅(奄美市名瀬大熊で亡くなった。八十二歳だった。

紫朗さんの葬儀ミサは七月四日(水)午前十一時から大熊教会で荘厳に執り行われた。

東日本被災地ボランティア活動報告

奄美カトリック女性連盟 久保正子

大槌ベースへ

三月六日（火）から八日（木）まで、元寺小路教会（仙台教区司教座聖堂）での日カ連理事会のあと、十二日まで四泊五日で「長崎教会管区・大槌ベース」に行ってきました（役員と会員六人）。地震・津波・火災で焼け野原となつてしまった大槌に、うじて残ったビジネスホテルを改修してベースとした所です。

八日の夜、雪混じりの雨の降る寒い中、ベース長の古木神父様が駅に迎えに来てくださっていました。駅からベースまでの間、神父様から「やっとこの道路にも灯りがつきました」と聞かされました。建物は何も見えませんが、人の気配のない山中を走っているみたいでした。

ベースでは一日の締めくくりのミーティングが行われているところでした。その後、神父様から「明日は、まず見てくださいますか。何か必要なのですか。どう向き合えば良いのか。とにかく見てくださいますか」と言われました。

翌朝、ベースの向かいに沢山の倒れた墓が山の上まで見えました。そして真つ黒に焼け焦げた大木が見えます。その中を私たちは山に登りました。今こうして思い出すだけで煙の臭いがしてくるような感じられ、災害の強烈な印象が頭を離れません。無残に倒れた墓

石の間に建てられた新しい墓には「三月十一日」の日付けと、お爺さんから四歳の女の子まで四人の名前が刻まれていました。ほかに三人の名前が刻まれたお墓もありました。

一年経った震災地の様子をの当たりにしましたが去年七月に見た時と何も変わっていないように思いました。瓦礫の山、崩れた建物、崩れた建物が引つかか

えませんでした。生活の様子が見えませんでした。人の気配がしないのです。まして子供の顔がまったく見られないのです。

仮設住宅での暮らし

二日目は、雪の舞う中、仮設住宅に野菜の販売に行きました。ハンドマイクで「野菜を持ってきました」と仮設の中を歩き回りましたがあまり応答がありません。ベースで教えられたとおり、住んでいる人の無事を確認しながら一軒一軒戸を叩き訪問しました。ドアから、狭い仮設住宅の中で不安な生活を強いられる姿が垣間見え「何でもいからお役に立ちたい」という思いが募ってきました。

町の中にはコンビニくらいしか店が見当たらず、一軒だけ大きなスーパーがありました。仮設からは交通アクセスが悪く、また品物の値段も高いように感じました。高台のへんびな所にある仮設住宅はまったく同じ形のマッチ箱を思わせる形状で、自分の家を探すのにも苦労しそうなほどで

す。雪の降りしきる中、老夫婦が傘をさし、いたわり合いながら野菜を買いに来

てくれましたが、震災前は豊かに暮らしていたかとも知れないのと思うと本

当にお気の毒で「どうぞお元気でいてくださいね」と

思わず、後ろ姿に祈りま

した。私たちベースの仲間

は、仮設で野菜を売って回

る者、キッチンカーで焼き

そばやおでん、豚汁等を

売って回る者、写真展のお

世話をする者等いるんな

のでしよう。この写真を撮られた彼女も被災者です。恐怖に怯えながらもたまたま持っていたカメラで撮り続けたそうです。

ベースの隣にろうじて残った建物の二階に喫茶店がありました。震災前は一階部分で昔からの米屋と喫茶店を営んでいたそう

です。その一階が「津波で使えなくなつたので」と話

してくれました。階段の上は鉄骨などむき出しです。

「夜は仮設に帰るけれどベースが隣にあって、一晩中灯りがついているからホッ

とします」と。ベースの前の墓地は、三千人位の檀

家を持つお寺さんだった

うです。災害時等の避難場

所になつていたので四十

人ほどの人たちが非難して

2012 ザビエル上陸記念祭

8月15日（水）午前8時～

第一部 ザビエルウォーク

ザビエル上陸記念碑前（鹿児島市祇園之洲）を午前8時出発しザビエル教会を目指します。

第二部 平和祈願ミサ 午前10時30分

第三部 平和の鐘を鳴らそう

鹿兒島ユネスコ協会と協力して正午にザビエル教会の鐘を鳴らします。

第四部 茶話会

エル教会の鐘を鳴らします。

しんでいると胸の痛くなるような話をたくさん聞かせてもらいました。

雑感

次の日はベースのバスで被災地を見せてもらいました。行けども行けども広野原、たまに建物が残っている人も人の住める状態ではありません。昨年七月に見た時と殆ど同じです。今のよ

うな復旧の状態では以前のよ

うな町並み、元の緑が戻るには、いったい何年かかるのでしょうか。本当に戻るのか、可能なのか見当すらつかない状態に感じられます。片付ける人もなく打ち砕かれた心と物に心が痛みます。夜に震災当日の様子

をみれば、マリア様は原罪の結果である出産の苦しみにから除外されているはずで

す（創世記3:16）。無原罪の御宿りとは、マリア様は

母親であるアンナの胎に宿

つたときに既に原罪の汚れ

から守られていた、という

教義です。したがって、マ

リア様はお産の時には苦し

まなかつた、と考えること

が神学的にも聖書的にも正

三月十一日震災一周年の慰霊祭当日の慰霊祭会場には家族、親族だけの参加に限定されていて、私たちはベースの聖堂で古木神父様司式のミサで祈りをささげました。翌十二日の慰霊祭会場は一般人も入れるという事で私たちも白いカーネーションを供え、亡くなられた方々のために心から、ご冥福を祈りました。

「主よ、この震災で亡くなられたすべての人々に、あなたのもとで永遠の安息が与えられますように。そして今なお行方不明の方、残されたご家族の上にあな

たの助けと励ましの聖霊の恵みを送って下さい。私たちはこの震災地から遠く離れ安穩に暮らしています

が、決してこの兄弟姉妹のことを忘れることなく、与えられた場所で、日々の生活の中で主の愛を証していくことができるように聖霊の助けをお与え下さい。」

このボランティア活動を通して、被災地の様子を見、更には、原発事故で苦しんでいる人々のことを考えるとき、この惨状を風化させることなく、私たちにできる最大限の支援をして行かなくてはならないとの感を深くしました。

天、即ち、天に挙げられた、という理解なのです。

イエス様は死と復活、そして御昇天によって人々を贖う務めを果たされます。

一方、マリア様は被昇天によつて神の母としてイエス様の贖いの協力をなさつたのです。実に、聖母の被昇天とは単なる伝承や神秘的なお話ではなく、無原罪の教義に基づく神学的でもあり聖書的なものであるのです。

天、即ち、天に挙げられた、という理解なのです。